

平成30年2月22日(木) 10:00~12:00  
第4回 港湾の堤外地等における高潮リスク低減方策検討委員会

# 三大湾のフェーズ別高潮対応計画 【大阪湾WG検討結果】

## 【報告】 第2回大阪湾における高潮対策検討WGについて

### 1. WGでの検討状況

- ・平成29年8月9日、委員12名、オブザーバー(民間企業)10名の参加で開催。
- ・エリア減災計画策定協議会を設置するモデル(アイデア)を事務局から3案提案し、議論した。
- ・港湾管理者から、エリアとして減災計画を定める際の課題が表明された。
- ・民間企業から、複数企業が連携した防災対策連絡会の運営状況や高潮対策は脆弱であることなど、現状が報告された。
- ・情報共有に関わって、情報の質についての意見があった。
- ・国、管理者、企業それぞれが役割を発揮するため、1歩踏み出そうとの意見があった。

### 2. フェーズ別高潮対応計画策定にあたっての主な議論のポイント

- ・台風上陸直後のタイミングでの開催であったこともあり、潮位予測や高潮警報のタイミングなど、防災気象情報に対する質問や意見が多く出された。

### 3. フェーズ別高潮対応計画策定にあたって工夫した点

- ・対応時間の設定にあたり、過去の台風対策事例を参考にした。
- ・水門・陸閘等の閉鎖指令を出す港湾管理者、海岸管理者から多くの意見をいただいた。



# 大阪湾における国の対応例

## 【事前準備・対応】

- 事前準備
  - ・施設の老朽化対策
  - ・重要施設（電源設備等）の嵩上げ（海に近接する堤内地においても）
  - ・災害時の通信設備の用意（衛星電話等）
- 直前準備
  - ・潮位予測情報、降雨情報等の気象・災害情報の収集・整理

## 【段階的な防災行動計画】

時間の目安	フェーズ	行動開始のトリガー (気象庁の情報)	人命の安全確保、情報伝達等			物流機能の維持			生産機能の維持			
			情報共有・提供	施設管理の指示	その他	○移動・退避	○固定作業	○動かない資産	○移動・退避	○固定作業	○動かない資産	
台風最接近の1~5日前	①	台風進路予報・台風に関する気象情報（随時発表） 波浪注意報 強風注意報 高潮注意報 波浪警報又は波浪特別警報 暴風警報又は暴風特別警報 高潮警報又は高潮特別警報	○気象・海象情報の収集（台風対策委員会等、気象台台風説明会出席） ○気象情報等内部共有	○直轄工事・直轄保有船舶対策指示	○連絡体制確保			○国から管理者へ水門・陸閘等の閉鎖状況確認依頼			○国から管理者へ水門・陸閘等の閉鎖状況確認依頼	
台風最接近の1日前	②		○警戒態勢（警戒体制）（港長）※必要に応じて ○高潮特別警報の可能性言及（気象台）	○直轄工事・直轄保有船舶対策完了	○対本部注意体制			○水門・陸閘等の閉鎖状況の情報共有			○水門・陸閘等の閉鎖状況の情報共有	
台風最接近の半日前	③		○大型船等避難勧告（第一避難体制）（港長）※必要に応じて ○全船舶避難勧告（第二避難体制）（港長）※必要に応じて	○防潮板の設置等	○リゾン派遣準備 ○対本部警戒体制							
	④				○水門・陸閘等の閉鎖状況の情報共有			○水門・陸閘等の閉鎖状況の情報共有			○水門・陸閘等の閉鎖状況の情報共有	
暴風が吹き始める前に防災行動を完了												
台風最接近の6時間前			○浸水被害状況情報収集	○カメラによる監視								
台風最接近の数時間前			○被災状況の情報収集	○カメラによる監視	○対本部非常体制							
高潮発生時			○国、管理者の被災状況の情報共有	○カメラによる監視	○協定団体の出動準備、資機材確保依頼 ○TEC-FORCE出動の準備（被災後） ○TEC-FORCE出動の検討			○国、管理者の被災状況の情報共有			○国、管理者の被災状況の情報共有	

※①本表は、国が実施する対応の一例を示したものである。

②表中の赤字は、大～最大規模高潮の発生が予想される場合に、中・小規模高潮時の対応に加えてとる対応例、青字は行動を早める対応を示したものである。

# 大阪湾における港湾・海岸管理者の対応例

## 【事前準備・対応】

### ●事前準備

- ・施設の老朽化対策
- ・重要施設(電源設備等)の嵩上げ  
(海に近接する堤内地においても)
- ・災害時の通信設備の用意(衛星電話等)
- ・防災行政無線(スピーカー)の整備
- ・ハザードマップ(堤外地及び堤内地)の周知

### ●直前準備

- ・潮位予測情報、降雨情報等の気象・災害情報の収集・整理
- ・水門・陸閘等の閉鎖に係る調整(人員確保、連絡体制等)及び動作確認
- ・内水排水施設の状況確認等
- ・飛散可能性のある施設の固縛

## 【段階的な防災行動計画】

時間の目安	フェーズ	行動開始のトリガー (気象庁の情報)	人命の安全確保、情報伝達等			物流機能の維持			生産機能の維持		
			情報共有・提供	施設管理の指示	その他	○移動・退避	○固定作業	○動かない資産	○移動・退避	○固定作業	○動かない資産
台風最接近の1~5日前	①	台風進路予報・台風に関する気象情報(随時発表) 波浪注意報 強風注意報 高潮注意報 波浪警報又は波浪特別警報 暴風警報又は暴風特別警報 高潮警報又は高潮特別警報	○気象・海象情報の収集 (台風対策委員会等、気象台台風説明会出席) ○気象情報等内部共有	○施設点検 ○防潮板、土嚢の設置等	○水門・陸閘等の閉鎖準備開始	○堤外地からの避難・水門閉鎖時刻の周知(電話等(随時))		○交通に影響のない水門・陸閘等施設の閉鎖司令	○堤外地からの避難・水門閉鎖時刻の周知(電話等(随時))		○交通に影響のない水門・陸閘等施設の閉鎖司令
台風最接近の1日前	②		○警戒態勢(警戒体制)(港長) ※必要に応じて ○高潮特別警報の可能性言及(気象台)	○工事・保有船舶対策完了 ○水門・陸閘等の早期閉鎖(委託者への指示も含む)	○管理者から国へ水門・陸閘等の閉鎖状況報告 ○留まらざるを得ない人員以外は避難開始						
台風最接近の半日前	③		○大型船等避難勧告(第一避難体制)(港長) ※必要に応じて ○全船舶避難勧告(第二避難体制)(港長) ※必要に応じて	○水門・陸閘等の閉鎖(委託者への指示も含む)	○管理者から国へ水門・陸閘等の閉鎖状況報告	○埠頭用地、臨港道路の見回り		○丸島水門、北堀水門等の閉鎖 ○交通に影響のある水門・陸閘等施設の閉鎖司令		○丸島水門、北堀水門等の閉鎖 ○交通に影響のある水門・陸閘等施設の閉鎖司令	
台風最接近の6時間前	④							○東島排水機場等の稼働		○東島排水機場等の稼働	
台風最接近の数時間前			○被災状況の情報収集、報告								
高潮発生時			○被災状況の情報収集、報告 ○国、管理者の情報共有		○協定団体の出動準備、資機材確保依頼						

暴風が吹き始める前に防災行動を完了

※①本表は、各港湾・海岸管理者が実施する対応の一例を示したものである。

②表中の赤字は、大～最大規模高潮の発生が予想される場合に、中・小規模高潮時の対応に加えてとる対応例、青字は行動を早める対応を示したものである。

③個々の陸閘等の閉鎖等の判断は、予測潮位や地盤高で個別に判断する。